

さぶりめんと

2017-Dec.

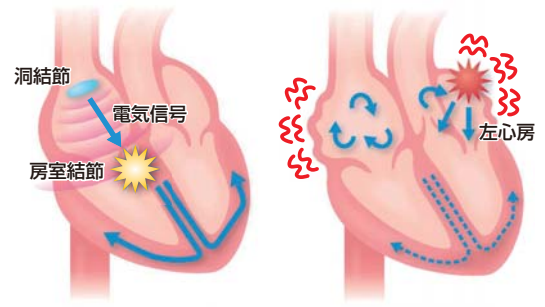
No.43

心房細動アブレーション ～苦痛軽減の取り組み～

循環器内科 増田 正晴

心房細動とは？

心房細動は、心臓の拍動が乱れてしまう不整脈の一種です。通常、心臓は洞結節からの規則正しい電気信号により全身に血液を送ります。しかし、心房細動では、左心房側の別のところから出る余計な電気信号が心房を渦巻くように流れ、心房がけいれんしてしまいます。これにより心房内に血栓(血の塊)ができやすくなり、この血栓が脳梗塞や心不全の原因となりうる怖い病気です。自覚症状は「どきどきする」、「息切れがする」などですが、気が付かないことも多いです。



(正常な心臓)

(心房細動)

アブレーション治療

近年の治療では「カテーテル」という細長い器具を足の付け根の血管から心臓に挿入して、カテーテルの先から高周波電流を流し、原因部位にやけどをつくって心房細動を根治するアブレーション治療が広く行われるようになってきました。アブレーション治



(アブレーション治療の様子)

療については、現在、ほとんどの患者さんに受けていただける治療となっています。(持続期間の長い方や重篤な併存疾患をお持ちの方はできないことがあります。)当院では、最先端の治療機器を用いて、安全かつ正確な治療を行っており、豊富な治療実績があります。治療時間は約1時間となっており、比較的短時間での治療が可能で、入院日数の目安は3泊4日となっています。1回の施術で70～80%の方は根治します。2回目を受ける方は10%程度おられますが、3回目を受ける方はほとんどおられません。また、後遺症に関わるような合併症は1,000人に1人程度とされています。



“楽に”治療を受けていただくために

心房細動アブレーションは治療に伴う痛みなどの負担が大きく、施術をためられる患者さんも多くおられました。当院では少しでも楽に治療を受けていただくために、様々な取り組みを行っています。今回はその一部をご紹介します。

全身麻酔

これまでは「鎮静」という、感覚を鈍くして痛みを感じにくくする麻酔が行われてきましたが、より苦痛を取り除くため、希望される方に全身麻酔下でのアブレーション治療を実施しています。施術中は完全に眠っていますので、痛みや不安などの苦痛を感じることなく治療を受けていただけます。

鎮静下の経食道心エコー検査

血栓ができやすい患者さんに、アブレーションの術前に実施する検査です。口から「エコープローブ」という胃カメラのような器具を入れて、心臓内の血栓の有無を調べます。より楽に検査を受けていただくため、希望される方には鎮静剤を投与して実施するようにしています。



私たちの目標は、一人ひとりの患者さんに安全・正確な治療をできるだけ“楽に”受けていただくことです。詳しい治療方法、また心配事や不安などがあれば、循環器内科専門医までお問い合わせください。

関西ろうさい病院の理念

●● 良質な医療を働く人々に、地域の人々に、そして世界の人々のために ●●

病院運営の基本方針

- ・私たちは、働く人々の健康確保のための医療活動、即ち「勤労者医療」中核的役割を担ってこれを推進します。
- ・私たちは、急性期医療機関として良質で安全・高度な医療の提供を行うとともに、地域の諸機関と連携して地域医療の充実を図り「地域に生き、社会に応える病院」としての発展を目指します。
- ・私たちは、患者さんの権利を尊重し、医療の質の向上ならびに患者サービスの充実に励み、「信頼され、親しまれる病院」作りを心がけます。
- ・私たちは、「開かれた皆様の病院」として、ボランティアや有志の方々の病院運営への参加・協力を歓迎します。
- ・私たちは、病院使命の効果的な実現のために「働き甲斐のある職場」作りを行い、運営の効率化と経営の合理化を推進します。

イメージキャラクター
かんろっこ

さぶりめんと

2017-Dec.

No. 43

病院での栄養相談

栄養管理室 長尾 美恵

食事人間の活力源

人は誰でもいつかは何らかの原因で死を迎えます。病気にかからない人はほぼいません。私たち管理栄養士の仕事は、口から食べるという人間が本来持つ当たり前の行動のお手伝いをすることです。食べる事を見直すことによって病気が良くなることがあります。薬を最大限有効にするのは食事であり、治療の一翼を担っているといっても過言ではありません。患者さんとお話をしていると、血圧の薬を飲んでいてから血圧は高くないと思っている方がいます。はたしてそうでしょうか？食事の塩分は多くないでしょうか？野菜はしっかりと食べていますか？



栄養相談とは？

栄養相談は「これを食べてはダメです！」「嫌いなものを食べましょう。」といった話を聞く所ではありません。病状が少しでもひどくならないように、薬の効きが良くなるように、ほんのちょっと食事内容を見直していただくためのものです。

当院でも管理栄養士による栄養相談を行っています。栄養相談は「入院栄養相談」と「外来栄養相談」があります。どちらも平日の午前・午後の毎日、1回約30～45分間予約制で行っています。栄養相談を希望される方は、主治医または担当の看護師にお申し出ください。



(栄養相談の様子)

入院栄養相談

- 入院中の食事内容や、退院後の食事方法の相談
- 場所は病室・栄養相談室
- 個別相談・集団指導

外来栄養相談

- 患者さんの生活状況に応じた食生活の提案や相談
- 場所は栄養相談室
- 個別相談



また、以前は生活習慣病である糖尿病や高血圧などの相談をお受けすることが多かったですが、近年ではがんや加齢に伴う嚥下障害、低栄養などの栄養相談も行っています。



近年、一人暮らしの方や高齢の方も増えています。その方の生活に合った食事のアドバイスをさせていただいています。当院の管理栄養士は、経験豊富で話し上手で聞き上手です。きっと皆さんに合った栄養相談をお受けできると思います。食事でお困りの方は、ぜひ一度ご相談ください。